

# 地場産業でデータ活用へ 広島工大が研究会

広島工業大（広島市佐伯区）は、大量のデータを解析して有用な情報や法則性を見いだす「データサイエンス」を地場産業の発展につなげるため、研究会を新設する。10月1日午後2時から、中区中島町の同大広島校舎で「キックオフシンポジウム」を開く。

研究会はデータサイエンスの手法を用いて消費者動向の分析などを進め、新たなビジネスモデルづくりを目指す。学外の研究者や企業関係者の参加を募る。研究会幹事の同大の山田憲嗣教授（電子情報）は「データサイエ

## 1日中区でキックオフシンポ

ンスには企業が抱える問題を解決する力があるが、活用は進んでいない。知識や技術を広く共有したい」と話す。

シンポでは産業技術総合研究所（東京）の関口智嗣理事（さとし）が基調講演。同大や地場企業の5人も登壇し、研究の意義や先進事例を紹介する。無料。終了後、同じ会場で情報交換会（会費2千円）もある。いずれも電子メールで申し込み。k.yamada.7a@cc.it-hiros

hima.ac.jp

（田中美千子）